



インチキ霊媒師は
除霊をしない
どころか3Pを
強要して彼氏も
止めてくれません

幼なじみのタカオは小学生のころからモテた。
爽やかなイケメンだし、それでいて容姿を鼻にかけず、
おおらかで快活だし。

ただ異性への扱いは下手くそ。
告白を断ったらストーカーされたり、別れた元カノに藁人形を送られたり、女同士のビンタ合戦に巻きこまれたり。

しょっちゅう女トラブルを起し、收拾がつかなくなつて俺に泣きつく。
複雑な心境ながら、慰め励ましつづけたのが、まさか報われようとは。

社会人になっても友人づきあいがあり、その日は急にアパートにきて「マサトおお！」と大泣きして抱きついてきた。

宥めて話を聞くと、会社の女上司に迫られて拒絶したら、翌日、自殺したという。

「もうやだ！俺を裏切らないのはお前だけだ！」と泣きじやくりながら、そのまま俺を抱いて、めでたく結ばれることに。
が、ハッピーエンドとはならず。

交際しはじめて一週間後。

忙しいなか、やっと逢引ができて、いいムードになった、そのとたん蛍光灯が破裂。

それからというもの、エッチな雰囲気になると物が破損してけたたま

しい音が。

鏡にひびがはいったり、コップが落ちて割れたり、本棚ごと倒れたり。

「き、きつと女上司の呪いだ・・・！」とタカオはすっかりノイローゼに、俺も心を病んでしまい。

略奪愛でないとはいえ、女上司の自殺をきつめに両想いになれたものだから、罪悪感を覚えるような。

とはいえ二人とも別れることは考えず「プロに見てもらおう」との選択を。

ネットで調べて探し、自己紹介が信頼できそうで、ユーザーの評価が高い霊媒師、鬼頭に依頼。

露天風呂に浸かる中年男性の父性に焦がれて

男子高生は甘えて求めて乱れまくる

中学生からレスリングをはじめて、二十三歳にしてやっと目の目を浴びる。

遅咲きにして圧倒的強さを誇り、金メダルは確実とされていたが、オリンピック開催を目前にして車の事故により足を負傷。

足が使い物にならなくなり、出場を断念したどころか、引退に追いやられてしまい。

その年に交際相手と結婚し、心機一転、指導者としての道を歩むことに。

着実に経験をつんでレスリング強豪の高校の監督に就任。

去年、幼いころからレスリングをしてきた息子がその高校へ。

もちろんレスリング部に所属し、父親と二人三脚で全国制覇を目指している。

これが父の経歴であり、今、話題になっている息子というのが俺。一年生にしてレギュラーを獲得、夏には全国大会に出場予定。

全国大会に向けての山奥での合宿。

宿泊先の旅館にて、俺は深くため息を吐きながら浴衣を脱いで硝子の引き戸を開けた。

湯気がもうもうと立ちこめる露天風呂。

練習後と食後にほとんどの部員がはいったろうから、夜の0時を回っ

た今は、いないはず。

かるく体を洗ってから湯船に足を向けると、湯気越しに人影が。

つい体を強張らせるも、湯気が薄まってお目見えしたのは中年男性。

頑固親父を絵に描いたような厳めしい俺の父と年は近そうだが「やあ、いい夜だね」とにこやかに挨拶する彼は、物腰柔らかく知的な雰囲気。顔つきは渋くありながら、細マツチヨな体つきは若々しい。

「さあ遠慮しないで」と笑いかけられ、おずおずと湯舟にイン。

遠くに座ったものを「いい体しているね。なにかスポーツを？」ときりげなく隣に。

「レ、レスリングを・・・」とうつぶいて応えたのに「ああ、団体は

きみたちだったんだね」と柔和な笑み絶やさず。

二回以上、年上ながら彼は無邪気で人懐こく、かなり人見知りの俺の警戒をすっかり解いてしまい。

興味深そうに合宿のことを聞くから、それに応じていると「ねえ、触ってみていい？」とスキンシップまで。

聖女として召喚された俺はブーイングされるどころか

男どもにセックスアピールされまくりです

その世界は天災が畳みかけ、このまま亡ぶのでは？と人人が絶望するほどの危機に陥っていた。

賢者が調べたところ、天災を起こす原因が判明。

かつて国の王子を、魔女が見初めるも失恋。

恨みつらみを抱えて自死をし、呪いをかけたのか、当時も天災がふりかかったとか。

天災の影響で王子が死亡したことでおさまったらしい。

では、どうして、それから100年経ってから再び呪いが発動したのか。

十六才になる国の王子が、かつて魔女が恋をした王子に顔がそっくりだったから。

隣国の王女との婚約が決まった日を境に天災が起こるようになったので、嫉妬深い魔女の怨念がまだまだのこっているのだろう。

この地に深く染みついたような魔女の呪いは、常人にはどうすることもできず。

「土地を浄化して、呪いを解けるのは異世界の聖女だけです」との賢者の進言を受け、現代日本から召喚されたのが冴えないサラリーマンの俺。

光に包まれている間、聞こえていた歓声が、視界が開けたとたん取りかこむ人々は静まりかえってしまい。

慌てたように、その場からつれだした賢者に、この国の事情を聞かさ

れた。

「いやいや！聖女でしょ！？」

俺、男だし、不思議な力なんか持っていないよ！」

「たしかに女ではないが、聖女たる力があるのが、わたしには見えるのだよ」

「といつても、さっきの反応からして皆、俺を見てがっかりしたんじゃない！？

やっぱ、なんか間違いないんじゃない！？」

見た目は義理の父、中身が男子高生の俺は

悪役令息に夜のおかずに使われています

男子高生として、それなりに充実した日々を送っていた俺は、交通事故故に巻きこまれご臨終。

気がついたら乙女ゲームに転生して、悪役令息の義理の父というややこしい立場に。

本当の父親は、悪役令息のレリーが幼いころに他界。

しばらく母親は未亡人でいて、息子が多感な時期に再婚。

相手は二十代半ばで、レリーと七才しかちがわないとあり、もちろん折りあいがよくない。

そんな家庭事情の悪役令息だけに、家庭円満なヒロインに八つ当たり

をしているのだろう。

中身は男子高生で、レリーと同年とあり「いやー非行に走るのも分
からんでないわー」と共感できるのだが。

見た目は義理の父なので、笑いかけても睨むし、話しかけても無視す
るし、接近しても寄せつけないし。

ただ、俺が転生してきてからというものの、ヒロインをいじめなくなっ
たらしい。

理由が気になったものを、中身は高校生ながら大人としての仕事を、
日々こなさなければならず。

あまり義理の息子と交流する暇がなくて、その謎を謎のまま放置して
いたところ。

真夜中のこと、ふと目覚めてお手洗いに。

ランタンを持って廊下を歩いていたら、レリーの部屋のドアがすこし開いているのが目にはいった。

「几帳面なのに珍しい」と思いつつ、ノブをにぎったら「は、はう、んん、んあ・・・」と耳を打った悩ましい声。

参加者が男限定のデスゲームが

一八禁なんて聞いているんですけど

オンラインでするデスゲーム。

これにはまって大学にいく以外、ほぼパソコンに齧りつき。

このゲームのおもしろいところは、参加者の中に一人、主催者の悪魔、その手下が混じっていること。

命がけのミッションをクリアしようとするのを、悪魔の手下はばれないように妨害。

ふつうの参加者にとって不利だが、悪魔の手下を追放することが可能。ミッションクリアすることにより議場に移動し、参加者は話しあって、それが怪しいのか炙りだすのだ。

参加者の三分の一が投票すると、悪魔の手下の排除が決定。

もし、選択を誤れば、罪のない参加者は悪魔につれていかれて逝かされるという。

悪魔に具体的になにをされるのかは知らないが、おそらく殺されてゲームオーバー。

まちがって選ばれた人は、いくら「疑ってごめん！」と謝ってもゲームにもどってこないし、音声のやりとりもできなくなるから。

協力プレイしてミッションクリアをするのも遣り甲斐があるなれど、議場での駆け引きが肌がひりつくようにスリリングでたまらない。

とあって、夢中にプレイをしつづけて半年。

あと半年も経てば、ポイントが溜まって「悪魔の手下」にもなれる。
「それまで議場での経験値を高くするぞ！」と意気こんでプレイを重ねていたところ。

その日は議場に移ったところで寝落ち。

頭ががくりと落ちて、目を見開けば、そこには画面越しでない議場が広がっていた。

それぞれの壇上にいるのは、アバターでなく、生身の人間。
全員、男。

拾った犬を去勢しようとしたら

「ご主人様だけに使うから」と夜に眠らせてくれません

帰宅途中、倒れた犬を発見。

獣医につれていって診てもらったところ重度の栄養失調とのこと。

点滴を打つと目を開けて、すこし餌を食べたに「このまま栄養をとらせれば回復するでしょう」とのこと。
ほっとしたなら聞かれたもので。

「で、この犬どうするんです？
あなたが飼うんですか？」

住むマンションはペット可なれど、俺は研究に忙しく在宅時間はすく

ない。

家族が多い家に飼われたほうがいいだろうと「飼ってくれる人を探します」と返答。

うなずいた獣医は手伝ってくれることを約束しつつ「ただ、できれば健康体にもどって飼い主が見つかるまで、あなたが預かってくれるといいのだけど」と提案。

「首輪をしてたし、接した感触では人に慣れてるようとはいえ、衰弱して道に放置されていたのが気になりますから。

人と生活しながら体と心のケアができればいいんですよ」

今は論文の発表前とあり在宅でも仕事は可能。

「一ヶ月くらいなら」と応じ、犬を飼うための用品を買って帰宅。

翌日、犬をひきとり家で共に過ごすことに。

獣医がいうには訳ありっぽいのが、とくに問題なし。

まだ痩せ細ってふらついているとはいえ、食欲旺盛だし、人懐こいし、よく尻尾を振るし、腹を見せて甘えるし。

柴犬が混じった雑種で見た目もかわいらしく「犬を飼うのもいいかもなあ」と思ったり。

思うだけで、犬の世話をしながら飼い主探しを。
また去勢するか否かを悩み中。

ドラゴンがイケメンでむかつくが

孕ませようとするから嫉妬する暇はありません

パーティーとはぐれて森で迷子中。
開けた場所にドラゴンを発見。

野良ドラゴンのように人間に敵対的なのか友好的なのかは分からず。
「へたに接触しないほうがいいか」と離れようとしたものを、息苦し
そうなのが気になり、あらためて観察。

顔を歪めて、足のほうには血が。

どうやら怪我をして飛ぶことができないよう。

俺が持つ回復アイテムで治すことができるが・・・。

熟考した末、木陰からでて距離を保ちつつ「よお」と挨拶。

「あと一つだけの貴重な回復アイテムをくれてやる。

その交換条件で、飛べるようになったら俺を背中に乗せてくれないか？

はぐれた仲間を空から探したいんだ」

敵意がないことを示すため、剣を地面に置いて交渉。

人語を理解できるらしく、また話すこともでき「分かった・・・」と返事。

敵意は覚えなかったし、弱っているようだったから、一応警戒しつつも、近寄って回復アイテムを使用。

傷はふさだったとはいえ、長く動けずにいたらしく、血を失ったのと空腹なのでドラコンは飛べず。

しかたなく、鹿と猪を狩って与えてやり、たき火をして一晩ドラゴンと眠ることに。

翌朝ドラゴンは元気になって、早速、仲間搜索の手伝いを。

このドラゴンの目は特殊らしく、熱探知ができるとか。

おかげで広大な森にあつて複数の人型の熱源を易々と見つけてくれ、俺を送り届けてくれた。

婚前交渉を許さない侯爵令息は

生生しいエッチを知らない

なんやかんやあって乙女ゲームに転生。

俺が生まれ変わったのはメインキャラの侯爵令息、ロザリオの親友。

ヒロインとの恋を後押しするのが主な役目。

ちなみに婚約者がいて、浮気もしている軟派な男。

対照的「浮気はもちろん、婚前交渉はだめだよ！」と本気で叱るようにロザリオは糞真面目でえらく硬派。

前世はそれなりに経験のあるいい大人だったから「婚前交渉だめ！」とむきになって突っかかる彼がかわいらしく思えて。

婚約者も浮気相手も放っておいて、ロザリオと遊びまくり。

その日は俺の家の別荘でお泊り。

夜には枕でお互いを叩きあい、きやつきやとはしゃいで。

思いつきり振りかぶった枕は空ぶって、ロザリオが押しつけたのが顔面に直撃。

倒れるとき、つい彼の寝巻の袖をつかみ、二人してベッドに沈んだ。

で、事故の口づけを。

思いがけず顔を熱くしてしまった俺に対し、顔を青ざめて震えるロザリオ。

「そんなにいやだった!？」とショックを受けるも、直後に素っ頓狂

な発言を。

「どうしよう！子供ができちゃう！」